標準委員会　第30回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

１．日　時　　2015年12月2日（水）　13：30～14:20
２．場　所　　5東洋海事ビル　A+B 会議室
３．出席者（敬称略）
（出席委員）　萩原（部会長），越塚（副部会長），吉田（幹事），石川，伊藤，上野（途中入室），北島，堺，坂本，佐田，宿谷，田中，西田，沼田，日比，宮坂（16名）
（代理委員）　中瀬辰男（関西電力／藤井代理）（1名）
（欠席委員）　岡本，佐々木，山口（3名）
（常時参加者）　工藤（1名）
（説明者）　［シミュレーションの信頼性分科会］田中正暁(幹事)（1名）
（事務局）　中越，谷井（2名）

４．配付資料
ATC30-0　議事次第
ATC30-1　前回議事録（案）
ATC30-2　人事について
ATC30-3-1　“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”公衆審査意見対応への標準委員会決議投票結果
ATC30-3-2　“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”公衆審査意見対応への標準委員会決議投票意見に対する対応
ATC30-4　“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”修正
ATC30-5-1　「標準委員会・用語集」に関する作業依頼
ATC30-5-2　「標準委員会・用語集」に関する作業結果
ATC30-6-1　誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する依頼
ATC30-6-2　誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果
ATC30-7　「原子力施設の廃止措置の計画改定の着手について」
ATC30-8-1　会合出欠管理表及び委員名簿の提出(依頼)について(依頼)
ATC30-8-2　基盤応用・廃炉技術専門部会出欠管理表
ATC30-8-3　５カ年計画更新の作業依頼(報告),
ATC30-9　分科会の活動状況について
参考資料
ATC30-参考１　基盤・応用技術専門部会委員名簿
ATC30-参考２　標準委員会の活動状況

５．議事内容
事務局から開始時点で委員20名中，代理委員を含む16名の出席があり，委員会成立に必要な委員数（14名以上）を満足している旨，報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC30-1）
前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について（ATC30-2）

事務局からATC30-2に基づき，分科会の人事についてそれぞれ下記の提案があり，審議の結果、確認又は承認された。

1）分科会

①委員退任の確認

【廃止措置分科会】

井上　義弘　（三菱原子燃料）
黒木　松雄　（関西電力）
初岡　賢政　（原子力安全推進協会）
福島　正　　（東芝）
村上　一夫　（清水建設）

②委員選任の承認

【廃止措置分科会】

深田　聖　　（三菱原子燃料）
西田　一隆　（関西電力）
田村　明男　（原子力安全推進協会）
篠田　敏彦　（東芝）
鳥居　和敬　（清水建設）
岩田 竹広　（日本原子力発電）
松嶌 聡　　（日本原子力研究開発機構）

(3)【報告】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」公衆審査意見対応への標準委員会決議投票結果について（ATC30-3-1，ATC30-3-2）

事務局から ATC30-3-1 に基づき，“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 公衆審査意見対応への標準委員会決議投票結果，2 名の委員から意見があったことが報告された。引き続き，シミュレーションの信頼性分科会の田中幹事から ATC3-30-3-2 に基づき，標準委員会委員から出された意見への対応(ATC3-30-3-2(5))について報告があった。

(4)【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」修正について（ATC30-4）

シミュレーションの信頼性分科会の中田主査，田中幹事から ATC3-30-4 に基づき，“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”の修正について報告があった。

審議の結果，修正内容は編集上の修正であることが承認された。

(5)【報告】「標準委員会・用語集」について（ATC30-5-1，ATC30-5-2）

吉田幹事から ATC30-5-1，ATC30-5-2 に基づき，「標準委員会・用語集」について報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

Q：”シナリオ”については”事故シナリオ”と”シナリオ”とがあり、同じような用語がる。

C：あいまいとか十分に定義されていない用語を定義することに本作業の意義がある。

Q：”標準委員会・用語集”がまとまれば、今後作成する標準等はこれに束縛されるのか。

C：今後作成する標準等はまとまった”標準委員会・用語集”に束縛されると理解する。

(6)【報告】誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』について（ATC30-6-1，ATC30-6-2）

吉田幹事から ATC30-6-1，ATC30-6-2 に基づき，「誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』について報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

・誤記チェックマニュアルを標準活動基本戦略タスクで作成中である。

C：ATC30-6-2”誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果”において重要度高の標準は基盤応用・廃炉技術専門部会ではない。

C：そのため、欄”確認状況及び今後の予定について”でチェック結果を記載する必要はなく、ブランクとする。

C：欄”誤記調査対象図書の重要度の設定”ー”【参考】規制当局が活用している標準”で“活用と認識”と記載されている標準があるが、それよりも活用していると考えられる他の標準がブランクであり、水平でそろえるのであればブランクとする。

C：欄”誤記調査対象図書の重要度の設定”ー”5 年毎の改定要否判定時期”で、”○”と記載している標準があるが、”○”ではなく標準策定スケジュールに記載された時期を転機する。

(7)【報告】「原子力施設の廃止措置の計画改定の着手について」（ATC30-7）

廃止措置分科会の田中幹事から ATC30-7 に基づき，原子力施設の廃止措置の計画改定の着手について報告があった。

主な質疑等は以下のとおり。

Q:資料では廃止措置の計画：2011 の改訂を行なうと共に、新規でいくつかの標準を作成するということか？

→　現行版を廃止措置計画書作成の規程として特化し、計画立案に係る要素技術を独立したものとして発行していく計画である。新たに作成するものは、現行の附属書の内容を拡充して独立させるものである。

Q:放射能インベントリ評価と施設の特性調査は一つのカテゴリーではないか？

→　IAEA の標準では両者を纏めてそのように扱っている。このように分けた理由は廃止措置計画を立案する事業者で両者を担当する担当分野が異なるという点を配慮したものである。なお、今回ここで示した新規発行の標準及びガイダンスの構成は、今後分科会の検討の中で見直していくことはありうる。

Q:「計画」と「安全評価」が標準で、それ以外がガイダンスとしているのはなぜか？

→　計画と安全評価は、将来的にエンドースされることを目指して作成していく。他の分野は手法そのものが固定的なものではなく、随時新らたに技術開発がなされていくことが想定されるので、参考とするものという位置づけでガイダンスとすることにしている。

Q:改訂を進めていく期間は利用者のニーズに沿ったものであるか（遅いように思われるが）？

→　既に検討を進めているものもあり、可能な限り前倒しをしていきたいとは考えている。分科会としてのマンパワーとの兼ね合いでこのような計画になっている。

Q:分科会の下に、作業会の設置はしないのか。

→　いまのところ作業会の設置は計画していない。こちらも今後の進捗に合わせて考えていくものである。

６．その他

(1)次回第31回基盤応用・廃炉技術専門部会は，3月1日（火）13:30から開催することになった。

以上